

潜在的可能性を秘めたマスコットの有効性に関する研究 ーJリーグに焦点を当ててー

A study of the Effectiveness of the J-league Mascots' Latent Potentiality

1K05A056

指導教員

主査 原田宗彦先生

梶尾 雅子

副査 石井昌幸先生

【研究背景・目的】

1993年に開幕したJリーグ。爆発的な人気を誇るも4年目以降は人気が低迷。その後、「地域密着」や「百年構想」といったスローガンを掲げ、少しずつ回復してきた。今ではその踊り場に来ているといえる。そこで注目したいのがマスコットである。マスコットを所有するメリットは、スタジアムでの演出や地域のイベントに選手の代わりにチームの代表として参加し、地域密着を高めることなどが考えられる。また、マーチャンダイジングにおいても、関連グッズの販売を促進し、クラブに利益をもたらすと考えられる。しかし、その存在や活動状況はあまり知られていないというのが現状である。年をとらないマスコットはチームにとって永遠の財産である。マスコットが多くのチームにとって有効的な役割を果たすためにも、マスコットのあり方を見直す必要があるであろう。そこで、本研究の目的は「キャラクター・ビジネスの有効性」「キャラクターを有効活用するためのコンセプト」「Jリーグにおけるマスコットキャラクター特有の要素」を明らかにすることである。

【研究方法】

まずキャラクター・ビジネスの側面から、なぜ日本でキャラクター・ビジネスが有効であるかの研究を進める。その研究から、キャラクターを有効的に活用する上で重要な要素を導き出す。次に、J1に所属しマスコットを所有している17チームのマスコットの活動状況と、ファンからの評価、マスコットの認知度とマスコットに抱くイメージの関係性を明

らかにする。一つ目の活動状況は各チームのホームページを調査対象とした。二つ目のファンからの評価については、Jリーグの公式ファンサイトであるJ's GOALのマスコットランキングを調査対象とした。三つ目の認知度とイメージの関係性については学生を対象にアンケート調査を行った。以上3点から総合的に分析し、評価が高いとされるマスコットを選定し、キャラクター・ビジネスの研究から導いたキャラクターを有効活用モデルに当てはめ分析する。

【結果・考察】

日本人は「見た感じ」を重視し、イメージが伝わりやすいということからキャラクター・ビジネスが有効であることがわかった。また、歴史的にもキャラクターが浸透しやすい土壌があり、日本社会という点からとらえてもキャラクターを使った戦略は時代の流れにマッチしたものであった。しかし、全てのキャラクターが有効というわけではない。キャラクターを有効活用するためのコンセプトは、まずキャラクターに明確な世界観を確立することである。そしてそのキャラクターが人々に受け入れられるためには、人々の心理的要素(認知・感覚的要素、情緒的要素、物語的要素)に訴えることが重要であった。人々の心理に訴え、人々をキャラクターの世界に取り込むのである。

これを踏まえ、Jリーグにおけるマスコットキャラクターについてみていくと、特有のコンセプトが浮かび上がった。それは、情緒的要素を強めることであった。もちろん、キャラクターの世界観構築や、

他二つの心理的要素を満たすことも重要である。しかし、情緒的要素は思い出や準拠集団と結びつく要素であり、こうした点からのアプローチはチームとつながりを持ちたいと願うファンにとって有効なのである。さらに、情緒的要素を強めることにより他の要素が弱い場合にそれを補うことができるのである。

マスコットはチームのコンテンツのひとつにすぎないが、チームとファンの中間に位置し、両者をつなぐ役割を果たす存在である。ただいるだけのマスコットではなく、命を吹き込まれたマスコットは重要な財産であり、そのマスコットを使って興行することは有効な手段である。マスコットのスタジアムでの演出やファンとのコミュニケーション活動によりファンの情緒的要素を満たす。これがマスコットが有効的に機能するあり方である。チームとのつ

ながりを意識させ、それを経験や思い出として残すことができれば、チームとファンの間にWIN-WINの関係が生まれる。地域密着を掲げるJリーグにおいて、マスコットは重要な役割を担っている。

【今後の課題】

本調査では、マスコットの活動実績が実際にどのような影響や効果を与えているかについて現場の生の声を聞くことができなかった。サポーターや運営者、またはマスコット自身からインタビューができれば、あらゆる視点からマスコット興行について考えることができたであろう。より実現的なマスコットのあり方を提言するためには、こうした研究の継続と蓄積が必要である。